

『もりおかの短歌』

冬の部 優秀賞十首

もりおか ひと やき み
盛岡の人の優しさ見るごとく

ゆき ひ
雪あかりの灯

ゆ
ほのかに揺れる

盛岡市 中島 久光

ぎぼうしゆ はし わた はつまい
擬宝珠の橋を渡りて初参り

こお あさ
凍れる朝の

いき しろ
息の白さよ

盛岡市 堀米 公子

ほんて と
ユーカーラの本手に取りて

きんだいち はかせおも
金田一博士思えり

ゆき ふ あさ
雪の降る朝

盛岡市 西川 政勝

かみ はし ぎぼし うえ
上の橋の擬宝珠の上にも

ゆき つ はっひ う
雪は積み初日を受けて

まちあか
街明るみぬ

盛岡市 石川 修子

みこだ
神子田にて

ふ ゆき
しんしんと降りつむ雪に

ひ ふたり み
あの日をまぼろしに見る

宮城県亘理町 福田 佳昭

ぎんざ か
銀座ではまだ枯れざるに

たくぼく いえ やなぎ
啄木の家の柳の

いっせい ち
一斉に散る

東京都国分寺市 守屋 明俊

いわてね まむか たくぼく
岩手嶺に真向ひをれば啄木の

こえかぜ の
声風に乗り

き き
聴こえて来たる

青森県八戸市 鈴木 リヨ

なかつがわ

中津川

みなも うつ でんしよく

水面に映る電飾も

せい よる ま

聖なる夜を待ちわびている

岩手県矢巾町 小野寺 一洋

たくぼく かひ

啄木の歌碑に

ふ ゆきみ あ

降る雪見上げいる

われ ひとり ゆうじん

我も一人の友人として

秋田県大仙市 鈴木 仁

いてばれ りん そび いわてさん

凍晴に凜と聳ゆる岩手山

み ひ し

身を引き締めて

て あ

手を合わせたり

千葉県印西市 宮本 るり子

ジュニア部門 優秀賞三首

該当なし

〔講評〕

冬の部を担当するのは初めてですが、心のこもった作品が多く寄せられ嬉しく思います。小学生や幼児の作品もあり、入選とはなりませんでしたが、心豊かなものばかりでした。岩手や盛岡、そして啄木に対する思いの深さがどの歌にも表されていて感心いたしました。

平成三十一年三月選 冬の部

投稿数 百九首

選者 山本 豊